



乳がん治療の新たな選択肢

乳腺外科

RFA 治療が当院で可能になりました！

Q1

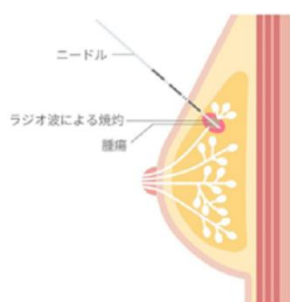
切らない乳がん治療RFA
(ラジオ波焼灼療法)とは？

早期乳がんに対して、皮膚から針状の電極を刺して、ラジオ波の電流でがん組織を熱で焼いて死滅させる治療法です。

メスで切る手術と異なり、皮膚の傷跡がほとんど残らず乳房の変形が少ないのが特長です。

2023年12月より保険適用となった乳がんに対するラジオ波焼灼療法(RFA)について、当院は日本乳癌学会から「RFA実施可能施設」として承認を受けました。

広島県西部地区では唯一の認定施設として、手術に加わる新たな治療オプションを患者さんに提供できるようになりました。



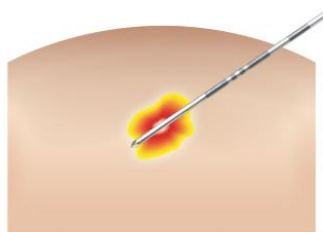
Q2

どんな人に向いているの？

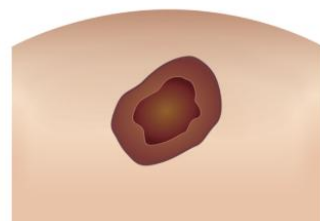
▼しこりの大きさが1.5cm以下で限局した乳がんである。

▼組織型が乳管がんであること。

▼リンパ節転移や遠隔転移がないこと。



焼灼中イメージ



焼灼後イメージ

Q3

治療の流れは？

全身麻酔をかけて、手術室で行います。

まず、センチネルリンパ節生検を行います。

次に、RFA治療を行います。

超音波で病変を確認して、腫瘍の上と下に5%ブドウ糖液を入れて熱傷を予防します

その後、腫瘍を貫くようにRFA針を挿入し、部位を決定します。

針の位置が決まったら、焼灼を開始します。

病変が焼き切れたことを確認して治療を終了します。

焼灼の間は氷嚢で皮膚を冷却しながら、治療を行います。

Q4

標準手術と比べて、
RFAのメリットは？

▼低侵襲・低負担

皮膚を針のサイズ程度しか切らないため、傷跡がほとんど残らず、体への負担が少ないです。

▼整容性の高さ

手術と比べると乳房の変形が少ないです。

▼治療時間の短縮

治療時間は比較的短いです。

▼早期社会復帰

術後の痛みが少なく、早期に社会復帰が可能です。

Q5

RFAのデメリットは？

▼合併症のリスク

皮膚の熱傷、乳房の硬結（しこり）、陥没乳頭などが起こる危険性があります。

▼治療適応の制限

原則として、腫瘍の大きさが1.5 cm以下で、リンパ節転移がない限局性の早期乳がんが対象です。

強く希望されても対象にならない可能性があります。

▼後続処置の必要性

治療後に放射線治療が実施され、治療部位の病理組織検査でがんが完全に焼灼されたか、再発がないかを確認する必要があります。

RFAの適応となる方には情報提供させていただきます。

乳腺外科

01

主任部長
遺伝子診療部主任部長

梶谷 桂子 (かじたに けいこ) 医籍登録 平成13年

主たる診療分野/専門分野
乳腺疾患一般、遺伝性腫瘍

認定資格

- ◆日本外科学会 専門医
- ◆日本乳癌学会 専門医・指導医
- ◆臨床遺伝専門医
- ◆遺伝性腫瘍専門医

02

部長
臨床腫瘍科主任部長

板垣 友子 (いたがき ともこ) 医籍登録 平成14年

主たる診療分野/専門分野
乳腺疾患一般、腫瘍内科

認定資格

- ◆日本外科学会 専門医
- ◆日本乳癌学会 乳腺専門医・乳腺指導医
- ◆日本臨床腫瘍学会 がん薬物療法専門医
- ◆マンモグラフィ読影資格医
- ◆乳房超音波検査資格医

	月	火	水	木	金
初診 8:30-11:00	板垣	—	手術日	板垣	梶谷
再診 8:30-11:00	梶谷	板垣		梶谷	—
再診 8:30-9:00 11:00-12:00	—	—		—	甲斐 (手術日)
初診 9:00-10:00	—	梶谷		—	—
午後診療 (再診) 13:00-14:30	梶谷 板垣	手術日		梶谷	板垣

JA 広島総合病院 地域医療連携室
〒738-8503 廿日市市地御前1丁目3-3

TEL:0829-36-3111(代)
FAX:0829-36-3160